

東京工業大学と川崎市が中心となって発足した「中分子×IT×創薬ビジネス研究会」の第1回研究会が5日、川崎市産業振興会館で開催された。同研究会は、東工大と川崎市が共同提案した文科省のプログラム「IT創薬技術と化学合成技術の融合による革新的な中分子創薬フローの事業化」の取り組みの一環。大学、大企業、ベンチャー、金融機関、ベンチャーキャピタルのマッチング機会の創出など「産学官金」連携を促進させることで、川崎市に世界的な中分子創薬産業のハブ拠点を形成していく狙い。

東工大と川崎市の共同事業プログラムでは、東工大が有するスパコンや機械学習を駆使したIT

中分子×IT×創薬ビジネス研究会発足 川崎を中分子創薬ハブに

「産学官金」連携を促進



講演する原田URA

IT創薬領域での新産業創出基盤の構築を目標としている。講演会・

創薬技術と人工ペプチド・人工核酸など化学合成技術を融合して、中分子創薬の開発効率の大幅な改善を目指している。具体的には、ペプチドドリームのPDDS法とITを融合することで体内安定性と細胞膜透過性に優れたペプチドを探索するプロジェクトと、核酸医薬化合物のin silicoでのADMET（薬物動態毒性）評価技術や化学修飾を施した人工核酸ライブラリーを構築するプロジェクトの2つを進める。東工大はこれらのプロジェクトの推進に向け、川崎市の殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」内に中分子IT創薬研究拠点を設置することを決めている。

同研究会では、共同事業プログラムを核に企業、アカデミア、金融機関などの連携を促進することで中分子・IT創薬領域のエコシステムを形成し、グローバルに打って出るベンチャーを生み出していきたい。そのためには創薬企業だけでなく化学企業、IT企業など幅広い業界の企業に参加を呼びかけていきたい」と述べた。

東工大と川崎市は、3月22日に共同事業プログラムのキックオフシンポジウムを川崎市産業振興会館ホールで開催する。